

	施策名	進捗状況	外部委員からの意見		評価	今後の対応方針
			これまでの評価・意見	今後に向けての意見		
1	国分川調節池上部活用事業	(1) 国分川調節池を育む会 ①平成29年度、整備予定箇所の設計、工事について会で検討 ②第30回国分川調節池を育む会をもって、検討会は終了  (2) 実施設計及び整備工事 ①中池（多目的広場、散策・休息広場、遊具広場）の整備 ②下池の自然ふれあいゾーン（観察路、観察デッキ）の設計及び整備 ③平成30年度、国分川調節池緑地完成 ※管理棟は、調節池に近接する道の駅内に設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順調に進捗していると考ええる。</li> <li>・多様性のある草地にすべきだったが整備されたサッカー場野球場になってしまっている。</li> <li>・水際線の地形や線形が極めて単調で土木的であるため、水際に接近できる設計にし、多様性に配慮した植生が欲しかった。</li> <li>・市民意見を取り入れて整備事業を進めたことは高く評価する。</li> <li>・無事に事業が完了できたことはよかったが、当初公園化しないことを前提に市民との協働でプランを進めていたものが、最後の数年で公園としての計画に変更になった歪みが解消されないままになったこと、その後の市民活動に結びつかなかった点は残念だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の管理、特に自然ふれあいゾーンにおいては、管理の目標像やボランティアとの役割分担を明確にした管理計画を作成して管理を推進していく事が重要</li> <li>・道の駅との関連付けも含めて利用が増えることを期待</li> <li>・早急にバッタの生息できる草地にすべき</li> <li>・自然復元ゾーンの草刈りは同じ高さで刈られているため生物多様性が損なわれないように、パッチ状に草刈りをする、ある区域は草刈りをしない、ある範囲は1年おきに草刈りをする、草刈りを同じ高さに揃えないなどの工夫が必要</li> <li>・スポーツ広場も自然ふれあいゾーンも適切に維持管理されることを期待</li> <li>・完成後の利活用を進めることが課題。 1つは協働の管理運営の推進。 「国分川調節池を育む会」等との連携を図る。 2つは利用促進。 自然観察会等のイベント開催。さらに民間事業者の参入による収益事業の導入も検討されたい。</li> </ul>	B (生物多様性に配慮した設計にできなかったため。)	維持管理を怠りなく実施していく。
2	ガーデニングシティいちかわ（ソフト関係）	実施内容 ①ガーデニングコンテスト（平成30年終了）、協働花づくり ②オープンガーデン（平成29年より「まちなかガーデニングフェスタ」から名称を変更） ③サポーター、ボランティア運営 ④G I C（ガーデニングいちかわクラブ）の設立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸植物の逸出による外来種の生物多様性への影響が悪い影響として挙げられるため、そこにも配慮して欲しかった。</li> <li>・ボランティアを育成し（ガーデニングシティいちかわ サポーター）、組織化した（いちかわガーデニングクラブ）ことを高く評価する。 ボランティアのスキルアップを図り、活動の輪を広げていくことを期待したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑の団体支援事業とも有機的につながるとさらに良い。</li> <li>・園芸植物やペットの適正な管理と飼育にも言及した計画にして欲しい。</li> <li>・引き続き活動を支援する取組が期待される。また、GICに代表される中間支援組織の育成、充実への取り組みが必要</li> <li>・アフターコロナに一層充実した活動ができるよう、市民のネットワークとサポーターの関心が維持できるよう広報や情報共有に力を注いで欲しい。</li> <li>・ガーデニングクラブ等において、市の花を何種類か選定して、苗づくりを行っていく事も花の街づくりには有効</li> <li>・園芸植物の逸出による外来種の生物多様性への悪影響があるため、その点についての対策をして欲しい。</li> </ul>	A (活動を継続的に行えたため)	広報活動を重点的に行っていく。
3	ガーデニングシティいちかわ（ハード関係）	(1) 整備計画の作成 ①市内の主要道路や駅前広場を整備していく計画を作成  (2) 花壇整備（道路） ①国道14号、都市計画道路3・4・18号をはじめとする主要道路に花壇設置や植栽を実施  (3) 花壇整備（駅前広場） ①市川駅、本八幡駅をはじめとする市内主要駅の10駅の駅前広場に花壇設置や植栽を実施  (4) 花壇の管理委託 ①ガーデニングボランティアにより管理実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花壇など花の植栽に重点を置きすぎている。</li> <li>・地道な活動を、継続的に粘り強く進めたことを評価するが、花壇整備（道路）の成果が数値で示されていないこと、また、「基本計画」における数値目標に対する達成状況がわからないため、評価しにくい。</li> <li>・地道な活動を、継続的に粘り強く進めたことを評価するが、花壇整備（道路）の成果が数値で示されておらず、基本計画における数値目標に対する達成状況がわからないため、評価しにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガーデンデザイナーを活用して修景のアップやボランティアのレベルアップを考慮することも有効である。</li> <li>・花壇の維持管理は、大雨台風などにも対処できるようにし、力を入れて欲しい。</li> <li>・菅野通りについて、花壇設置ばかりではなく、街路樹整備に力を入れて欲しい。また、防草シートを減らすことにも注力して欲しい。</li> <li>・繊維が足に絡まる事故も発生しているため、それを防ぐために早急に点検して欲しい。</li> <li>・在来野草・多年草の積極的活用、ナチュラルスティックプランティングの導入などにより、新しいタイプの花壇作りに挑戦して欲しい。また、商業・業務地や住宅の外構、道路の植え樹、公共施設の外構などにレインガーデン（雨庭）をつくることで新たなガーデニングを展開するだけでなく、雨水の浸透貯留や健全な水循環の回復などにも貢献する取り組みも一つのやり方である。</li> </ul>	B (花壇整備は行えたが、街づくりとの調和への配慮が足りなかった面もあるため)	新たなタイプのガーデニングを行うことを検討する。

		(詳細は「ガーデニングシティいちかわ(ソフト関係)」を参照)		<ul style="list-style-type: none"> <li>花壇はハードよりも維持管理が重要であるため留意して欲しい。</li> <li>国道や都市計画道路に花壇が設置されたことは高く評価するが、緑陰を広げるように高木を植え、その下枝を高くして草本植物との共存を図る必要がある。</li> </ul>		
4	小塚山公園整備拡充事業	<p>(1) 基本設計、実施設計</p> <p>① 平成28年度に小塚山公園整備基本設計業務委託を実施。</p> <p>② 平成29年度に小塚山公園測量業務委託、小塚山公園地質調査業務委託、小塚山公園埋蔵文化財調査業務委託を実施。</p> <p>③ 平成30年度に小塚山公園整備実施設計業務委託を実施。</p> <p>(2) 用地買収</p> <p>① 平成28年度に民地1筆(1,576.84㎡)を市川市土地開発公社から取得。</p> <p>② 令和元年度に民地2筆(698.72㎡)を用地取得。</p> <p>③ 令和2年度に国有地4筆(119.11㎡)を市川市土地開発公社で取得し、令和3年度に同公社から市が取得予定。</p> <p>(3) 整備工事</p> <p>① 令和2年度に小塚山公園整備工事を実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>できるところは確実に進捗している。</li> <li>どうめき谷津の開渠化・自然再生をやって欲しかった。</li> <li>長い年月にわたる取り組みの結果、令和2年度内に公園整備の完成に至ったことを評価したいが、完成後は市民の環境活動やレクリエーション等の活動の場として有効に利活用されることが重要である。管理運営・利活用の方策を策定し、地域・市民等と連携して取り組んでいくことを期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国道と東京外環自動車道により緑の回廊は切断されてしまったため、ロードキルにより動物の被害をなくすために小型動物の「アニマルパスウェイ」や中型動物のための「オーバーパス」などの道路横断システム・エコブリッジを作ることで生物多様性を戻す努力が必要。堀之内貝塚公園とのエコブリッジ作りも計画に入れて欲しい。</li> <li>市が整備を着々と進めることで国道の占用協議も進めやすくなると思う。</li> </ul>	B (生物多様性に配慮した設計ができなかったため)	今後は維持管理を中心に行っていく。
5	国府台緑地整備事業	<p>(1) 用地取得</p> <p>①平成29年度に1箇取得し、令和2年度に1箇所取得し、計687㎡を取得した。</p> <p>②寄付緑地は1筆651㎡を取得した。</p> <p>(2) 基本設計、実施設計 民有地の用地取得が難しいことから、設計は行っていない。</p> <p>(3) 施設整備工事 過去5年間実績なし</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボリューム的な圏域確保はできている。</li> <li>カシノナガキクイムシという昆虫が媒介するナラ菌によるナラ枯れが起きていることが問題。</li> <li>北西部における水と緑のネットワークの拠点となる国府台緑地の保全・活用という目標に向かって、継続的に取り組んでいることを評価する。地道な活動の継続を期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緑地を風致地区と積極的につなげる仕掛けが必要</li> <li>ナラ枯れ防止のために、定期的に点検して危険な樹木を把握して早急に対策する必要がある。</li> <li>緑地の買取りを粘り強く進めて欲しい。</li> <li>緑地管理計画を策定し、保全管理を進める必要はあると考える。</li> <li>樹林地評価制度や風致地区などの維持と合わせて緑地の買取を粘り強く進めて欲しい。</li> </ul>	B (ナラ枯れに対する認識が薄かったため)	維持管理を中心に行い、危険な樹木などがあれば早急に点検する。
6	花と緑の活動への支援	<p>(1) 花と緑の市民講座</p> <p>①毎年10講座を財団にて実施。</p> <p>②市は講座の費用の半分を補助。</p> <p>(2) 市民活動への支援</p> <p>①平成24年度より緑のボランティア団体に活動助成を実施(年間、1団体5万円×9団体)</p> <p>②市川ガーデニングクラブ(IGC)約60団体に花苗を配布し、IGCによって公園の花壇等に植栽を行った。(年間約28,000株の花苗を配布)</p> <p>(3) 緑化助成</p> <p>①生垣設置:17件、190.8㎡の設置に助成した。(助成金約306万円)</p> <p>②屋上緑化:2件、68.5㎡の緑化を助成した。(助成金約40万円)</p> <p>③駐車場緑化:13件、500.18㎡の緑化を助成した。(助成金約299万円)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公益財団法人市川市花と緑のまちづくり財団(以下、「財団」とする。)と連携して、市民講座の開催、市民活動の支援、緑化活動の助成を行った。財団との連携を強化して、事業の発展を期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民緑地や市民農園の借地及び管理主体としての役割やコーディネーターとしての役割を検討してみたい。</li> <li>緑を守るボランティア養成講座の卒業生が公園・緑地の維持管理に活躍しているため、補助金等により継続的な活動に結びつけて欲しい。</li> <li>自然のつながりの形成と市川の原風景である自然再生のためのビオトープ作りをもっと推進して欲しい。</li> <li>優れた活動や緑化の表彰制度を充実させるべきである。</li> <li>緑化助成の広報も行ってほしい。</li> <li>市民の自主的活動支援を今後も継続して欲しい。</li> </ul>	A (緑化助成を始め、様々な形で支援できたため。)	引き続き従来の活動を継続しつつ、緑化活動への後押しをさらにできないか検討していく。